

大西先生との出会い

大阪電気通信大学 小池 貴久

大西先生との初対面は、私が北大原子核理論研究室の学部 4 年生で、まもなく修士になろうとしていた頃でした。夕方、一人で PC 前に座って計算をしていると、加藤先生が新しい研究室の助手ですと紹介しに連れて来て、そのときの大西先生はすごく緊張した面持ちだったのを鮮明に覚えています。あんなに引きつった顔の大西先生を見たのは後にも先にもこのときだけでした。

修士時代の私は諸事情あって、北大の原子核理論研究室に居ながら、北大の誰にも師事せず（卒業研究半ばで東大核研に移籍した赤石先生と遠隔で連絡を取りながら研究していた）、原子核理論と言いつつ、純粋な原子核とも言えないようなテーマを一人で研究していたといういささか特殊な状態でした。大西先生はそんな私の研究にも興味を示してくれて、色々と率直な意見をくれたのは、当時孤軍奮闘していた私にとっては心の支えになっていました。個人的には、先生というより、頼れる兄貴みたいな感じを抱いていました。

博士課程に進学してからは委託学生として北大に籍を置きつつ、東大核研に研究場所を移したため、北大で大西先生と共に過ごしたのは修士の 2 年間 + α という期間しかありませんでしたが、博士取得後は研究会や学会等で合うといつもニコッと微笑んで挨拶してくれて、大西先生を見るとなんかほっとする気持ちになっていました。

最近学会等にも出席しなくなって久しいので、最後に挨拶したのはもう何年前か、もはや覚えていませんが、知らない間に大変なことになっていたとは露知らず、突然の訃報に絶句しました。私の中で思い浮かばれる大西先生はニコッと微笑んだ笑顔ばかりです。大西先生のご冥福をお祈りいたします。